

# 都市計画道路を考える 小金井市民の会

第5号 2016年10月6日  
発行 都市計画道路を考える  
小金井市民の会

連絡先 電話 090-7847-3968 事務局:阿部

## 「はけと野川の自然を守る市民活動の歩み」

### 野川ほたる村の江頭輝さんが講演



9月18日、「市民の会」は、第3回学習会を開催、30年間ハケの森の保全や野川の自然再生に取り組んできた「野川ほたる村」事務局長の江頭輝さんが、「はけと野川の自然を守る市民活動の歩み」を講演、60人が参加しました。

「野川ほたる村」は、30年前に「ほたるの里づくり」を開始、その後、東京都と公園協会と三者で野川公園に自然観察センターなどをオープンしたり、第二調節池の工事で野川をコンクリート護岸にした東京都に対し、完成直前にほたる村の婦人たちがコンクリートを剥がさせて自然護岸に戻したことを自身が撮影した写真で話されました。さらに、どじょう池や田んぼ型湿地づくりを提案し実現、これらは現在まで維持されています。

その後も様々な自然環境の改善活動や啓発活動を行い、ハケの森緑地を維持するため、地元リーダーと野川ほたる村とが協力して、東京都の制度を活用して小金井小次郎屋敷跡地の購入を小金井市に働き掛けたり、貴重な民有緑地の買い取りを市民トラストで推進していることも紹介しました。

同時に現在の国分寺崖線（はけ）は東京都の地図では緑に覆われているが実際には緑が連続しているのは武蔵野公園と野川公園周辺のみであり、「国分寺崖線の緑は風前の灯」と警告し、この地域に2本の都市計画道路をつくれれば、貴重な自然がさらに分断され減少すると指摘しました。

### 林市議と渡辺市議から条例作り、市長答弁を紹介

質疑応答後、出席している市議会議員の林倫子さんと渡辺大三さんから9月定例会で、「はけの自然をまもるための条例」を作るために議会で活動していることや、西岡市長が「地元への配慮に欠いた事業着手について

は、両路線とも希望することはない。」と答弁していることを紹介、市民の運動や小池知事誕生で変化していると感じていることを話されました。

出席者からは、市民の手で作られ、守られてきたはけと野川守ることが大事と多数感想を寄せられました。



### 3・4・11号線関係住民の会が発足

9月22日、道路予定地とその周辺にお住いの方々約45人の方が集まって、「3・4・11号線関係住民の会」が発足しました。

前半は、荒川区の西日暮里の「補助92号線を考える会」の代表の高橋重徳さんが、北区と荒川区を通る補助92号線が、現在の区道の交通量の分散・誘導に繋がらず、住民の納得を得られないものであることや、住民の疑問に全くこたえようとしない都の第六建設事務所の姿勢や、住民の活動を紹介しました。

後半は、「会」の発足会。会則と組織案が提案されて、代表、「副代表と世話人が選出されて、正式に発足となりました。会では、住民の不安にこたえて、情報を提供していくとともに、自分たちの生活の場を守っていく事、憩いの場である野川や、はけ、武蔵野公園を大事にしていく事がはなされました。

# 市長に小金井の都市計画道路2路線の見直しに関して申し入れ

9月13日、都市計画道路を考える小金井市民の会の共同代表と事務局など5人が小金井市長室を訪ね、小金井市内の2本の都市計画道路、3・4・1号線と3・4・11号線の優先整備路線に決定されたことの見直しに関して申し入れを行いました。以下全文。

小金井市長 西岡慎一郎殿

日頃より小金井市民のためご尽力いただきありがとうございます。

2015年末に東京都が発表した「東京における都市計画道路の整備方針（第4次事業化計画）」において小金井市の2路線が優先道路とされたことに対して、圧倒的な数のパブリックコメントをはじめ多くの小金井市民がその見直しを求める声を表明しました。

市長は小金井市民の意思を重く受け止め、その決定前の段階で、自ら東京都庁に出向き、担当者に慎重な対応を求められました。市長として勇気ある対応に感謝申し上げます。

ただ、遺憾ながら東京都は圧倒的多数の小金井市民の声を無視する決定を3月末に行いました。

「市民の会」は、住民意思を無視したその決定に強い憤りを覚え、6月4日には東京都に質問状を提出。8月10日は回答を受け取りました。ただし、その内容は我々にとって到底承服できるものではありませんでした（別紙参照）。

一方、この間、東京都においては新知事の誕生という大きな出来事がありました。

小池新知事は選挙前のアンケートに答え、以下のように大胆な見直しの可能性を表明しました。

一方、「人口減少社会＝自動車減少社会」の到来を見据えて、道路の新設に関しては、将来需要、費用対効果、地域住民の合意、地元区市町村や区市町村議会の意向、自然環境への影響などを多角的に分析して着手するかしないかを判断していく必要があると考えております。このたび東京都は優先的に整備すべき路線を決定するに至りました。妥当な内容も多々含まれておりますが、地域住民の合意、地元区市町村や区市町村議会の意向、自然環境への影響という観点で、優先整備路線に位置づけることが適切かどうか、見直しが必要な路線もあると考えております。知事に就任させていただきましたら、とりわけ地元から強い疑義が提起されている路線を実際に巡視し、地域住民の皆様とも対話し、優先整備路線に位置付けることが不適切だと判断される路線に関しては、大胆に見直しを進めていきたいと考えております。

「市民の会」はこの新知事に対しても従来通り、優先道路とされた2つの道路計画の見直しを求めてまいります。西岡市長にはさらに我々市民の側にたってご尽力いただくことをお願い申し上げます。

以下、ご質問とさせていただきます。ご回答をお願い申し上げます。

1. 東京都は8月10日の回答で、その決定の経緯を「小金井3・4・1号線、小金井3・4・11号線外の都市計画決定については、旧都市計画法時代の昭和37年に当初決定しています。これらの決定にあたっては、当時の法に基づき、地元の状況を把握している都議や関係市長、市議などが参加する都市計画地方審議会の議を経るなど、地元の意向を反映して適切に定めています。」と指摘しています。  
ただ、我々の関係住民の記憶では、当時、地元の意向を反映してこの決定がなされたとの記憶が全くないとのこと。市の立場から実際のところをお答えください。
2. 市長はその政治姿勢として「市民との対話、市民参加の重視」を掲げられています。多くの小金井市民は、50数年前の計画をいきなり持ち出してきて、「決まっていたことだから進めるのだ」とする東京都の態度に大きな不信感をいただいています。市長の掲げられた上記の姿勢とも全く相いれないものです。市長がその点をどのように考えておられるかをお答えください。
3. 小池新知事は、選挙前のアンケートに、「知事に就任させていただきましたら、実際に巡視し、小金井市、小金井市議会、地域住民の皆様とも対話し、優先整備路線に位置付けることが不適切だと判断される場合には、必要に応じ、見直しを進めていきたいと考えております。」と答えています。我々の望むところでもあります。市長としてその実現に向けて積極的に働きかける意思があるかどうかをお答えください。

## 本町のスーパー前で署名行動

9月17日、本町オーケーストア前で10時から1時間署名行動をおこないました。9人の方が参加し、開店と同時に買い物に来られた方々に「はけと野川の自然を守るう」と呼びかけ、30人の方から署名をいただくとともに、



たくさんの方に、道路問題を知っていただくことができました。街頭での署名行動は引き続き行なっていく予定です。

## 共産党都議団が現地調査

9月29日、日本共産党都議団の小金井道路の現地調査

があり、都議と徳留都議と市民の会の会員が、連雀通りから住宅街を歩いて、武蔵野公園、野川、はけの道からムジナ坂の富永さんの庭で、富永さんから話を聞いたり、意見交換などを行ないました。



## 道路問題・全都交流集会に参加

10月2日、道路関係住民の会の全都交流集会が行われ、小金井から5人が参加しました。

第一部は、時事通信記者の山本俊明さんが「記者の目からみた『道路計画と住民運動』」と題して講演。都民参加のモデルケース第1号となった美濃部都政下の放射36号線道路を中心に、車道優先の道路から歩道優先の道路に転換させた20年以上にわたる住民運動を紹介。この住民運動の組織がすごい、幹事は女性だけで30〜40人という。住民の90%を組織、地下鉄と都市計画道路の同時並行ということから始まる。普通の女性たちが、営団や都とわたりあい、交渉も100回以上行っている。

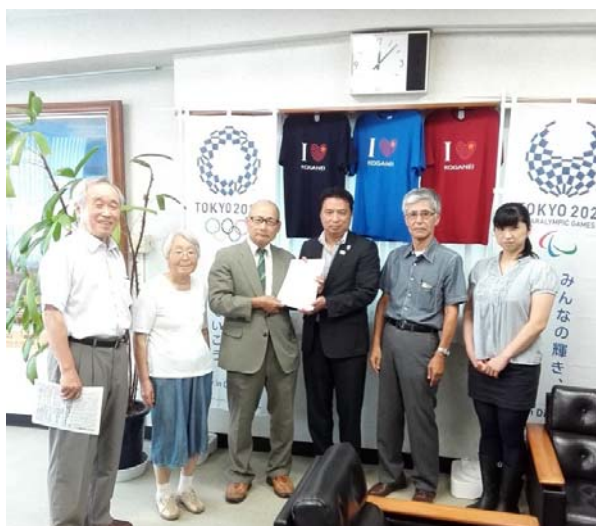


道路も中止でなく、住民のためになる道路に転換させたことがスライドで紹介された。このモニメント碑文が駅近くに建てられている。一度見に行く価値がありそうだ。

参加した各地の住民団体からも発言、「外環の2練馬」の方は、提訴期限の

1週間前の集会で、原告になる人はいない中、「だれか提訴する人はいませんか」という呼びかけに答えて、「集合住宅なので、原告は無理」と思っていたが、誰もいないので、手を挙げたという。結局、地権者1人、賛同者4人で提訴したそうです。

小金井からも、「市民の会」の発足からの活動や、都知事選での小池候補のはげ文への回答紹介、江頭さんの講演などを紹介、署名を広げてくれる依頼をおこないました。



西岡市長に申し入れをおこなう (9/13)



1面でお知らせした江頭輝さんの講演「はけと野川の自然を守る市民活動の歩み」から、市民活動の一部を紹介します。

3. 昭和60年代以降の市民活動(2) — 「野川ほたる村の30年の歩み」より —

- 1) 自然環境の改善活動(野川やハケの自然の保護・改善・再生のための活動)
- S61年 野川公園自然観察圏、自然観察センターなどの設計についてアンケートを実施
- S62年 ホタルの里親制度開始
- H2年 「調節池に湧き水を活かして池と小川を作ろう」陳情書 市議会
- H5年 稲苗の配布 開始 横沢入り保全運動の継続的支援を開始
- H7年 ハケの森を「山野草の育つ環境に保全するため閉鎖型緑地とする」要請 実現  
「野川の下草刈りについて」要望書 北南建 (カンタンとナンバンギセルの保護のため)
- H8年 「野川の水量確保と清流のある景観維持についての陳情」東京都 採択  
(JR武蔵野線地下水の野川導水、砂川分水の復活など)
- H9年 「旧前田邸の植生調査と下草刈りについて」要望書 東京都  
ハケの森の下草刈りを開始 「野川の下草刈りについて」要望書 北南建
- H10年 第一調節池を「湧水利用のオアシス作りに関する要望書」北南建
- H11年 「野川調節池の湿地利用について」陳情書 都議会  
調節池を測量し「ドジョウ池の計画書」を作成 (H&Com 財団助成)
- H12年 「みんなでつくる野川ビオトープの会」設立 田中兄一会長
- H13年 ドジョウ池が完成 都が本格工事 オニイタヤカエデの天然記念物申請の提案
- H14年 「第一調節池の湿地利用に関する陳情」都議会 採択 調査開始  
JR武蔵野線西国分寺駅工事地下水を野川に流す工事が完成  
くじら山下原っぱのカンタン生息区域の保全活動開始
- H15年 「野川とハケの森をつなぐ田んぼ型湿地づくりの研究」北南建に提出
- H16年 「小金井田んぼをつくろう連絡会」設立 小西正泰会長
- H17年 自然再生事業開始 野川自然再生協議会設立
- H19年 「野川自然の会」発足
- H20年 武蔵野公園で、S30年代の農景再現活動の開始
- H23年 外来生物対策を北南建に要望書を提出
- H25年 「オニイタヤカエデを市の天然記念物に」要望書 小金井市 (ハケの会と連名)
- H26年 オニイタヤカエデが市の文化財に決定
- H28年 都市計画道路都3-4-1号線、都3-4-11号線優先整備の見直しを市議会に陳情書提出・採択

会報第4号(8/30)以降の経過

- 9月1日 小金井市議会でも西岡市長答弁「地元への配慮を欠いた事業着手を両路線とも希望しない」
- 9月2日 日本共産党山添拓参議院議員(国土交通委員会所属)との懇談会に参加
- 9月6日 板橋区大山ハッピーロード商店街裁判傍聴・報告集会参加
- 9月8日 小池都知事への要請行動に参加(主催:東京都特定整備路線連絡会)
- 9月8日 第7回世話人会
- 9月13日 西岡市長に2本の路線の優先整備路線決定の見直しに関して申し入れ
- 9月14日 3件の裁判(4人傍聴)
  - ① 東京外環道青梅IC訴訟 第8回口頭弁論 11:30 522号法廷
  - ② 外環の2練馬訴訟 第14回証人調べ 13:30 522号法廷
  - ③ 北区志茂86号線訴訟 第5回口頭弁論 14:00 103号法廷
- 9月17日 本町オーケーストア前署名行動 9人参加 署名30筆
- 9月18日 第3回学習会「はけと野川の自然を守る市民活動の歩み」講師:江頭輝さん
- 9月22日 「3・4・11号線関係住民の会」発足会
- 9月27日、28日、30日 外環道都市計画事業承認に対する異議申立の口頭意見陳述(7人参加)
- 9月29日 共産党都議団2路線現地調査 曾根都議、徳留都議 21人参加
- 10月2日 道路関係全都交流集会 5人参加  
時事通信記者の山本俊明さん講演「記者の目からみた『道路計画と住民運動』」